

## 幼児期における自然素材とのかかわり ～草木染めの活動を通して～

Interaction with natural materials in early childhood  
—Through Plant dyeing activities—

家徳 沙恵子  
Saeko Katoku

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：草木染め, 幼児期, 子ども  
Key words : Plant dyeing, Early childhood, Child

### 1. 研究目的

本研究では、草木染め活動における幼児期の子どもの姿について研究を行う。草木染めとは、化学染料を使用した染め方と違って、草や木などの色素を使って染める昔からの染色法を指す。現在努める保育園で幼児クラスの担任をしていた際、草木染め活動と化学染料を用いた染め物活動と両方を行ったところ、子どもの姿に差が見られた。草木染め活動では、自然素材の匂いや感触、湯煎して素材の液が抽出される様子が見られ、滲み出た色と染める布についた色の違いについて不思議に思う発言などがあった。それに対して、化学染料として市販の染め粉を使用した染め物活動を行った際に、併せて輪ゴムとビー玉を用いて模様をつける工程も加えて行ったときには、模様作りや布を染色液につけて混ぜるなどの工程に夢中になる姿が多くあった。染め上がった作品はほぼ均一の色となったが、個々によって模様の違いがあり、面白い、楽しいなどの発言があった。両者の活動は同じクラスの子どもが違う年度に行ったものであり、その時の子どもの成長や発達段階との因果関係については明らかではない。

草木染めのプロセスの中には、素材の種類や形状、または水の量や温度の違いなどでどのように染め上がりに影響するかという科学的な気付きにつながるように思われた。

また、既製の染め粉と違って草木染めは自然素材のものであるため、染め上がった物にムラが出やすいが、そのムラは子どもにとって美しい模様

の発見にもつながると考える。

先行研究では、草木染め活動を教材開発として検討したものや染め物活動を行った後に、大人(保育者)から見た子どもの姿についての意見や討論内容をまとめているものが多いが、子どもが染め物活動を実際に行っている姿を記録しているものは少なく、どのようなプロセスで染色しているのかは明らかにされていない。

そこで、本研究においては、身の回りにある自然素材をいくつか用意し、素材が異なることによって子どもの姿や変化が見られるのか等も含めて研究を行っていくことにした。また、市販の染め粉等も用意し取り組むことで、草木染めの特徴を捉えると同時に、草木染め活動を行う子どものプロセスに注目することにした。

### 2. 研究実施内容

研究を進めるにあたり、現在の職場である【社会福祉法人 青柳保育会 中野打越保育園】に在園している、令和6年度の土曜保育の利用者(幼児クラスの子どもたち)を対象とした。

まず、環境設定として必要な道具の種類や数、机の配置や子どもの動線、ビデオ記録を撮る場所、染め物をするにあたっての素材や研究対象者などを選定し、8月～10月までの間に5回ほど予備調査を行った。実際に予備調査を行っていくと、始めに想定していた道具の数や種類等では不足することもあった。準備した道具では扱いにくそうにする姿も見ることができた。

また、調査を通して幼児クラス全体を対象としていたが、年齢や子どもによって集中力の差が生じる様子も顕著に見えてきたため、対象者は5歳児クラスで土曜保育を利用している子に限定することにした。

活動を終えた後は、当日やその後の平日の夕方保育時に幼児クラスへ行き、子どもたちと実際にを行った活動についての感想や次回の活動ではどうしたいか等話し合う時間を作るようにした。

また、そこでは時間の許す限り、一緒に何気ない会話をしたりコマ回しをしたりと子どもたちと触れ合う時間を大切にするようにした。子どもたちと一緒に過ごす時間が増えたこともあり、9月下旬頃には私がいる土曜日は「染め物ができる日」と認識して楽しむ子どもの姿が見られた。

11月から本調査として月に1~2回程度行い、現在3月にて9回分の本調査記録が取れ、ビデオ記録を元に当日のデータ起こしを行っている最中である。

#### 【調査日・内容】

- ① 8月17日ー朝顔①
- ② 8月31日ー朝顔②
- ③ 9月21日ー朝顔③
- ④ 10月25日ー市販の染料
- ⑤ 11月9日ー園庭にあるもの
- ⑥ 11月30日ーどんぐり・まつぼっくり①
- ⑦ 12月7日ーどんぐり・まつぼっくり②
- ⑧ 12月28日ー市販の染料（エプロン作成）
- ⑨ 1月17日ー市販の染料（模様づくり）
- ⑩ 1月25日ー園内にあるもの
- ⑪ 2月1日ー玉葱の皮
- ⑫ 2月8日ーぶどうジュース、ぶどうの皮
- ⑬ 3月1日ー玉葱の皮を使った媒染実験
- ⑭ 3月22日ー身近なもの染めてみる（予定）
- ⑮ 3月29日ー予備日

これらの記録は、エスノグラフィーを用いた積  
※全日、土曜保育のおおよそ9:30~11:45に実施。

極的な参与観察として実施した。染め物活動を行っていく際に、必要な工程として「①下地処理（布によって事前にたんぱく性の液につける）→②染料液づくり→③染色→④媒染→⑤乾かす」と大まかに5つの工程を踏む必要がある。ここに模様をつけたい場合は、③の染色の前に模様づくりの工程が入る。これら一つ一つの工程を子どもたちで行うとなった際、自分たちで工程手順を知る、または、知らせた内容を自分たちだけで行うことはきわめて難しいと考える。そのため、研究者本人と一緒に活動を行っていく中で工程や手順、道具の扱い方等を伝えることにした。

### 3. まとめと今後の課題

ここまで調査を行ってきた中で、少しずつ見えてきているものとして、「草木染め」にのみ子どもたちが惹かれる要素があると考えていたが、「市販の染料」を用いた染め物活動も行ってみると、子どもたちにとっては染料が自然か人工的なものかどうかということよりも、色を染めるという行為それ自体に大きな関心があるように思われた。

子どもたちにとって「染める」行為そのものや自然素材と触れ合う時間、模様づくりや染料液を作る時間等、個々によって好きな工程があるということも次第にわかってきた。

子どもたちの科学的関心というものが染色活動のプロセスの中でどのように現れているのかということの検討については今後の課題としたい。

#### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和6年度大学院生研究助成(B)(DB2409)を受けたものです。

This work was supported by Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University (Grant Number DB2409)